

薩摩川内の地域多様性を活かした観光・住民交流の促進モデル構想

～エネルギーが支える、人々が行き交い住み続けたいまちを目指して～

代表提案者

鹿児島県薩摩川内市

薩摩川内市は、島しょ部(シマ)、市街地(マチ)、山間部・農村部(ヤマ)など、多様な地理的特性を有し、地域独自の課題が存在する。「エネルギーのまち」として市内の多様なエネルギー資源を活用し、「シマ」活性化(エコアイランド)モデル、「マチ」QOL(生活の質)向上モデル、「ヤマ」定住化モデルづくりを目指す。

島しょ部(シマ)

市街地(マチ)

山間部・農村部(ヤマ)

全体構想

- ◆ 市民と地域の交流を促すスマートアクセスの実現を図る。(交通・観光)
- ◆ 情報通信技術を活用し、より快適なライフスタイルの実現を図る。(交通・くらし)
- ◆ スマートグリッドの整備・スマートハウス導入・賢いエネルギーの使い方に配慮した生活様式・エコまちの実現を図る。(くらし)
- ◆ HEMS端末により生活支援系サービスを提供し安心・利便性の高い生活環境を創出する。(くらし)
- ◆ エネルギー関連施設を結び「エネルギーのパビリオン化」を図る。(観光)

飯島における電気自動車導入実証事業

- ・ 電気自動車をリース方式で導入
- ・ 平日は主に市公用車として支所で活用、週休日は主に観光客向けのレンタカーとして運行
- ・ 利用者(観光客等)より、電気自動車の走行データや充電頻度等に関するデータ収集を行い、将来的なエコアイランド化に向けた具体的取組へ

飯島における超小型モビリティ導入実証事業

- ・ 島内の市支所、レンタカー(カーシェア)事業者、観光団体、地区コミュニティ協議会等に超小型モビリティを導入
- ・ 市民モニターを募り、実際の生活の中での体験機会を提供
- ・ 利用者(市民等)より、超小型モビリティに係る走行距離、位置情報及びバッテリー残量等に関するデータを収集
- ・ 主に市民の利便性の向上を図るとともに、将来的なエコアイランド化に向けた具体的取組へ

島しょ部、市街地、山間部・農村部ごとのリーディングプロジェクト



川内駅～川内港におけるシャトルバスの電気バス化事業

- ・ 平成26年春からの川内港発新高速船就航に伴い、川内駅と川内港との間を運行するシャトルバスに電気バスを導入、地域交通のグリーン化へ
- ・ 運行事業者の公募、電気バス及び電気バス用充電設備の入札を実施

市内中心部におけるスマートハウス導入実証事業

- ・ 創蓄省エネ機能を備えたスマートハウスを導入、本住宅を活用した実証実施
- ・ 本住宅を普及啓発・施策発信の拠点と位置付け、市内外からの来訪者に情報提供

スマートグリッド実証試験

- ・ 市内全戸に対し、電力需要等に関する意識調査を実施
- ・ 市民モニターを募り、スマートメーターや「エネルギーの見える化」端末を導入、季節や時間帯に応じた最適需要パターンの確立を促進